

10月は3R推進月間です

平成23年度

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

長野県循環型社会推進大会 開催レポート

日時：平成23年10月13日（木） 13:30～16:10（開場12:30）

場所：松本市音楽文化ホール（ザ・ハーモニーホール）小ホール

テーマ：『もったいない』を大切にして、信州が誇るライフスタイルを！

（長野県廃棄物処理計画（第三期）基本目標）



主催 / 長野県、信州豊かな環境づくり県民会議

プログラム

◇13:30 開 会

◇13:35 循環型社会形成推進功労者知事表彰

◇13:55 事例発表

駒ヶ根市消費者の会 会長 清水昭子 氏 副会長 代田 和美 氏
できることから始めよう！ 3R 駒ヶ根市消費者の会の活動

◇14:25 事業紹介

食べ残しを減らそう県民運動 信州「エコ・クッキング」
講師 長野都市ガス株式会社 エコ・クッキングインストラクター
田代 順子 氏

◇15:10 環境講演と講談

演題 『もったいない』の精神で私たちができること
～環境講談『もったいない善兵衛』～
講師 講談師 神田 紫 氏



◇16:10 閉 会

◇ ブース展示 12:30～16:10

●長野県●信州豊かな環境づくり県民会議●長野県リサイクル資材協会



開会あいさつ

長野県環境部長 荒井英彦

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 米窪千加代

荒井環境部長



○あらゆる経済活動や県民の暮らしの中に3Rの理念の浸透を図り、県民、事業者、行政がそれぞれ廃棄物の発生抑制や資源化に取り組む社会づくりを進める必要があります。

○3Rの中でも、「リデュース」が特に重要であり、県でも「リデュース」に係る各種事業を展開しております。例えば「食べ残しを減らそう県民運動」では、この春から「宴会たべきりキャンペーン」などを始め

ており、また、「レジ袋削減県民スクラム運動」についても全県的に大変大きな広がりをみせており、今後はさらにステップアップした取り組みも必要と考えております。

○これからも、県民、事業者、行政が一体となってさらなる3Rの取組を進めていきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、本日の大会を機会として、皆様の今後の活動に弾みがつくことをご期待申し上げます。

米窪会長



○信州豊かな環境づくり県民会議では23年度の重点率先取組事項として「地球温暖化防止に向けた取組の推進」と「循環型社会形成に向けた取組の推進」を掲げ、県民の環境保全活動への意識の高揚を図る取組を進めています。

○循環型社会を形成するためには、県民、事業者、行政がそれぞれの役割を踏まえ相互に協力し、ごみの減量化を推進していくことが必要です。

○本日ご参加いただきました皆さまにおかれましては、3Rについて学び、自ら行動していただくとともに、周りの方達へも是非広めていただきたいと思います。

循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成23年度は、「事業者の部門」において5名、「個人・グループ・学校の部門」において4名、その他の部門において3名、合計12名の皆様へ知事表彰が授与されました。

(順不同 敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	株式会社 山崎商店	諏訪市	永年資源回収事業に携わり、産業廃棄物処理業の許可取得後は廃プラスチック類、木くず等の収集運搬、処分業も行う。循環型社会形成のため環境マネジメントシステムを構築し 廃棄物の適正処理等を積極的に推進している。
事業者	株式会社 那須屋興産	伊那市	産業廃棄物等の収集運搬業、処分業、リサイクル事業を行い「資源循環プラントシステム」の研究開発に取り組む他、地元小中学生による環境活動への協力を行うなど意欲的に環境保全活動にも力を注いでいる。
事業者	有限会社 三井金属	東御市	産業廃棄物の収集運搬、中間処理及び保管、リサイクルの環境ビジネスを通じて次世代に美しい地球環境を残すべく資源リサイクルを促進する他、社会見学の受入やごみ拾い活動を行うなど地域社会から信頼を得ている。
事業者	神稲建設 株式会社	飯田市	環境にやさしい企業の確立を目指し、産業廃棄物の削減とリサイクルを推進する取組を行う。四半期毎、産業廃棄物の発生量とリサイクル率を集計し、廃棄物の発生抑制、建設資材の適正量注文と使用に努めている。
事業者	株式会社 みすずコーポレーション	長野市	大豆加工食品の製造工場として工場から出る全ての排出物を新たに原料として有効利用し、あらゆる廃棄物をゼロにする資源循環型工場を推進し、メタンガス回収、おからの有効活用、植物性廃油の再利用等を行っている。
個人・グループ・学校 (個人)	松浦 一男 (まつうら かずお)	松本市	町会衛生部長として、一日清掃等の環境美化活動を町会住民の先頭に立って取り組むとともに、ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進、ごみ減量等に取り組み、地域住民の良き模範となっている。
個人・グループ・学校 (個人)	牛山 清彦 (うしやま きよひこ)	松本市	永年にわたり町会、地区、市環境衛生行政の市民代表組織の中心メンバーとして、一日清掃等の環境美化活動、ごみステーション管理、ごみ分別指導、リサイクル推進、ごみ減量等、住民の先頭に立ち積極的に取り組んだ。
個人・グループ・学校 (グループ)	諏訪市消費者の会	諏訪市	諏訪湖の水質浄化のため、粉石けんの使用を推進したことをきっかけに、各家庭、保育園等から食廃油を積極的に回収し、年間約2000個の石けんを作っている。地域の講習会では環境問題を考える啓発活動も行っている。
個人・グループ・学校 (グループ)	駒ヶ根市消費者の会	駒ヶ根市	マイバッグ持参運動、廃油利用石けんづくり、生ごみの堆肥化講習会、マイ箸・マイボトル持参運動、再生品づくりなどの活動を行い、環境展等でパネルや見本展示を行うなど毎年市民へ具体的なエコ活動を勧めている。
その他	成田 栄一 (なりた えいいち)	安曇野市	松本市の現業職員として一般廃棄物収集運搬処理業務に従事。ごみ分別指導、廃棄物の適正処理、資源化等の促進、啓発等に情熱を傾け、ごみ減量推進に尽くす。誠実かつ積極的、勤勉な態度は他の職員の模範となった。
その他	小林 二美夫 (こばやし ふみお)	長野市	北信保健衛生施設組合のごみ処理施設職員として従事。豊富な経験と知識を活かし、処理施設の新設、管理に尽力し、技術者として他職員の模範となった。住民に対し、ごみ処理施設の迷惑施設のイメージ払拭に努めた。
その他	蟻川 実 (ありかわみのる)	山ノ内町	北信保健衛生施設組合のし尿処理及びごみ処理施設職員として従事。豊富な経験と知識を活かし処理施設の新設に尽力し、技術者として良好な施設の維持管理に努めるなど他の職員の模範となり後進の指導・育成を行った。

○荒井環境部長から知事表彰授与



○受賞者、荒井部長、米窪会長で記念写真



事例発表

発表者／駒ヶ根市消費者の会 会長 清水昭子氏 副会長 田代和美氏

テーマ／できることから始めよう！3R 駒ヶ根市消費者の会の活動



○会の成り立ち

駒ヶ根市消費者の会は、昭和50年に市内にある7つの団体が集まって発足し、消費者が自主性を持って健全な消費生活ができるように、さまざまな学習を通して、消費生活の改善向上を目的に活動している。現在、新日本婦人の会、生活クラブ生協、消費生活大学終了生を主体としたつくしグループの3団体、約400名で構成されている。

○活動内容

食品廃油による石鹸作り、生ごみの堆肥化、マイバッグ持参の啓発活動、古紙・古布の再利用等。

○食用廃油による石鹸作り

毎年必ず行う活動の一つで、作られた石鹸は好評で、毎年10月に行われる消費生活展&環境・健康フェスティバルで販売している。

○段ボール箱で堆肥作り

段ボール箱で堆肥を作る「ぱっくん」に取り組んでいる。段ボール箱にピートモスともみ殻くん炭を3対2の割合で混ぜ生ごみを入れる。30kg位の生ごみを1kg位に減らすことができる。その後保管しておけば堆肥となり、野菜作りなどに利用できる。

○レジ袋削減店頭啓発

偶数月に大型店店頭でチラシや花の種を配りながら啓発活動をしている。マイバッグ等持参率は平成17年度の25.2%から平成22年度の51.8%と年々向上しているが、男性と若年層に課題がある。

○古紙・古布の再利用

古紙が封筒や手さげに、古布も様々なもの生まれ変わります。(特に古布のリフォームでは、実際に会員の皆さまが作品を着用されステージで紹介していただきました。)



事業紹介

発表者／長野都市ガス株式会社 エコ・クッキングインストラクター 田代 順子 氏 他
紹介事業／食べ残しを減らそう県民運動 信州「エコ・クッキング」

県の事業担当から「食べ残しを減らそう県民運動」を説明

○長野県のゴミの現状（一般廃棄物）

- ・平成 20 年度実績 総排出量約 72 万トン。
- ・1 人 1 日約 1 kg のゴミを出しており、処理費は 1 kg あたり約 35 円の計算。
- ・家庭から出るゴミの 4 割、事業所から出るゴミの約 3 割が生ごみ。

○事業目的

生ごみの発生抑制が「食べ残しを減らそう県民運動」の目的。

○取組内容

・飲食店、宿泊施設での取組みとして、県内全域での協力店の募集し、今年度は「宴会食べきりキャンペーン」を実施。

- ・家庭・学校での取組みとして、信州「エコ・クッキング」の実施。

○一人ひとりの消費者ができる行動（3つのキーワード）

- ・店では 食材を買いすぎない
- ・家では 料理を作りすぎない
- ・外では 料理を頼みすぎない



エコ・クッキングインストラクター 田代順子氏による「エコ・クッキング」講習



○食べ残しを減らそう県民運動としての信州「エコ・クッキング」の実施

・(長野県ガス協会が長野県から受託し) 昨年 11 月 29 日から今年 3 月 10 日まで長野県内 10 地区 13 会場で信州「エコ・クッキング」講座を開催し、延べ 413 名の方に参加をいただいた。

・「エコ・クッキング」は、もともと東京ガス株式会社の料理教室の中で始まった活動であり、環境のことを考えて、買い物、料理、片付けをすること。

○「エコ・クッキング」の特徴

・調理は味覚を含む五感すべてを使うため、学習内容の寄り戻しが少なく教育効果が高い。

○信州「エコ・クッキング」ハンドブックの内容

下記の URL からハンドブックの内容がご覧いただけます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/haiki/tabekiri/seikatsukei/handbook.pdf>

環境講演と講談 女流講談師 神田 紫 氏

『もったいない』の精神で私たちができること ～環境講談 『もったいない善兵衛』～

神田紫さんは、神戸市出身で、小沢昭一氏主宰の「劇団芸能座」を経て、講談の二代目神田山陽氏に師事され、1989年真打に昇進、現在日本講談協会会員で寄席の他に各地の講演会に出演されるなどご活躍されています。

ノーベル平和賞を受賞したケニアの前環境副大臣、故ワンガリ・マータイさんが提唱する「地球の資源を大切にしましょう」という、「もったいない運動」に賛同され、3Rをテーマにした講談を作られ、その創作講談が、ご披露いただいた環境講談「もったいない善兵衛」です。

特技は、和太鼓、獅子舞、趣味は三味線、端唄、日舞等で、講演後には壇上で寄席踊りもご披露いただきました。



○真田幸村が大阪冬の陣に出陣するところの一節から『ピシーリーベン くわえるや 「ハーイ ヨー」 パッパッパッパッ パッパッパッパッ』この中に講談の要素のすべてが含まれていると、講演前にミニミニ講談教室を開催。講談とは何かを教えていただきました。

○「もったいない」とは、そのものの本来の価値が活かされず無駄になるのが惜しいということ。江戸時代のさまざまなリサイクル業なども紹介していただき、楽しみながら、「もったいない」の精神を学びました。

○楽しい講話で、会場は笑いの渦に包まれていました。



ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、長野県リサイクル資材協会

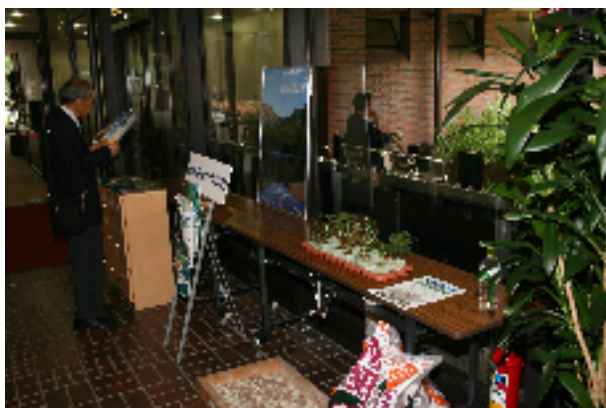
- 3 R 推進月間横断幕
(会場内展示)



- 「レジ袋削減県民スクラム運動」、「食べ残しを減らそう県民運動」、「信州リサイクル製品」のパネル展示



- リサイクル資材協会の展示



- 駒ヶ根市消費者の会のみなさんの作品展示

